

町長からの説明内容

東日本大震災から2年が経過しました。明るいニュースが少しずつ増えてきたようにも思われますが、仮設住宅や故郷を離れて避難生活を送る被災者が今も30万人以上、帰りたくとも故郷に足を踏み入れることさえ出来ない人々、故郷に帰ることを諦めた人々のいる現実を知るに、復興未だしが正直のところだと思えます。まだまだ大量に残るガレキ、福島第一原発による放射能汚染、そしていわれなき風評被害が復興への大きな妨げになっている、何とかならないか？絆とはどういうことか、日々思い悩んでいるところでもあります。

町では震災直後から被災者の受入れ、町民や観光客の皆さんからの貴重な尊い義援金の募集、物資の支援等々を行って参りました。また、福島県浪江町には職員の長期派遣も行っております。これからも、出来る限りの復興へのお手伝いをしていきたいと思っております。

ところで、箱根町は観光地として大きく発展をして参りました。国際観光地箱根として年間2,000万人

もの国内外からの観光客を迎える観光地にまで発展をしてきました。被災にあった東北の方々も、観光客として箱根にお越し頂いてきましたし、これからも是非訪れて欲しいと思っています。国内外から箱根に来ていただく観光客の皆さんのお陰で発展をしてきた町であります。

このような時だからこそ、被災地の復興のために出来ることは積極的に協力をしていくべきだと考えます。そこで私は安心・安全という絶対的担保のもとに、岩手県の漁網の受入れを、住民の皆さんの理解が得られるならばと考えたところであります。